

## 小、中学校における食に関する指導(食育)

栃木県宇都宮市立緑が丘小学校 樽井圭子

### I 食に関する指導について

#### 1 目標

学校教育活動全体を通して、学校における食育の推進を図り、食に関わる資質・能力を次のとおり育成する。

##### (知識・技能)

食事の重要性や栄養バランス、食文化等についての理解を図り、健康で健全な食生活に関する知識や技能を身に付けるようにする。

##### (思考力・判断力・表現力等)

食生活や食の選択について、正しい知識・情報に基づき、自ら管理したり判断したりできる能力を養う。

##### (学びに向かう力・人間性等)

主体的に、自他の健康な食生活を実現しようとし、食や食文化、食料の生産等に関わる人々に対して感謝する心を育み、食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を養う。

##### 【食育の視点】

- ◇ 食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する。【食事の重要性】
- ◇ 心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける。【心身の健康】
- ◇ 正しい知識・情報に基づいて、食品の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける。【食品を選択する能力】
- ◇ 食べ物を大事にし、食料の生産等に関わる人々へ感謝する心をもつ。【感謝の心】
- ◇ 食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける。【社会性】
- ◇ 各地域の産物、食文化や食に関わる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。【食文化】



#### 2 栄養教諭の関り

##### ○ 食に関する指導

- ・各教科の時間・・・担任への助言、授業の参画、資料の提供、生産者等との連携・協力



地場産物等の活用は、学校の食育の目標との関連においては、感謝の心や食文化を育成するための手段であることから、その食育としての成果指標が示せると現場の意識が高まる。

### Ⅲ 今後の方向性

#### 1 国民の健全な食生活の実践を支える食育の推進

- ・ 普遍的な課題であることから、国民レベルで全世代の具体的に目指す姿を示し、家庭・地域・学校・関係団体等が取り組む事業を共有し、誕生から一生をつなぐ、切れ目のない食育を推進し実践につなげていけるようにする。

#### 2 持続可能な食「3つのわ（環・輪・和）」を支える食育の推進

輪：生産者や消費者をつなぐ

環：生産⇒収穫⇒消費（選択・調理）⇒食品ロス

和：和食給食

- ・ 3つの輪に係る課題や目指す姿（目標値）を具体的に示し、生産・流通部局及び農林業者、そして消費する消費者（学校給食も）がそれぞれに取り組む事業を共有し、つながりがもてる食育を推進し実践につなげていけるようにする。特に、学校は、SDGsを教育としても推進する。

#### 3 新しい生活様式に対応した食育の推進

- ・ 具体的な目指す姿を示す。
- ・ 家庭で食事をつくる。ことは、生産、収穫、消費など「3つのわ」との関りも深くなる。
- ・ 学校では、「GIGA スクール構想」で1人1台のタブレットの時代となることから、オンラインを活用した食育の充実が考えられる。それぞれの分野によるネットによる配信や自分の健康チェックによる食育が充実（オンラインの活用）できるようになるため、そこへのアプローチを検討していく。